

ひろげる つなぐ かえる

2014 **7**

2014年6月25日発行
通巻187号



P1-2 熱中手帖。

-これまで×これから- Vol.24

NPO法人 みえ里山自然ふれあいの会

事務局長 村田 一成

P3-4 三重ぐるり特別編

「みえの市民活動ニュース」座談会！

- P5 募集のご案内、助成金情報
- P6 クローズアップ協創のヒント集、活動のぞき見隊
- P7 マイNPO物語、NPO・ボランティア私の一冊 ほか

熱中手帖。

—これまで×これから— vol.24

里山の価値、意義をみつめ、
子どもたちに里山の素晴らしさを伝えたい

NPO 法人 みえ里山自然ふれあいの会

事務局長 村田 一成

遊びから生活まで

里山に支えられていた過去

里山とはどういうものですか？

里山とは、簡単にいうと雑木林です。多種多様な動植物が生息し、宇宙のように奥深い。今はそう身近な存在ではないかもしれませんが、ほんの少し前までは、里山と人間は切っても切れない関係でした。

私が子どもの頃は、よく学校帰りに里山で遊んだものです。いろんな生き物がいて、自然のものを使って遊び道具が作れる。里山は、まさに子どもたちにとって格好の遊びの場でした。当時、今の子どもたちが夢中になっているテレビゲームや、インターネットなんてものはありませんでしたが、里山の中で五感を鍛えながら楽しく遊ぶことができました。また、料理を作る火やお風呂を沸かすための燃料は里山から拾ってきた枝などを利用し、スギやヒノキなどは建築用材として頻繁に使われていました。このように遊びから生活の細部まで、私たちの生活は里山に支えられていたのです。

しかし、1960年代日本は高度経済成長へと助走をはじめていくとともに里山を放置していくようになりまし。燃料は石油などの化石燃料にとってかわり、家も輸入木材や鉄筋コンクリート造のものが増えていき、里山を活用する機会がめっきりと減ってしまったのです。

私たちは、里山を捨てながらも「日本の豊かさは世界でトップクラスだ」と言わしめるまで登りつめました。物質的な量を見ればその通りではあります

が、「幸せだなあ」と皆さん感じているのでしょうか？「幸せ感」は「やすらぎ感」とであると私は考えます。里山と繋がっていた頃は、この「やすらぎ感」にみな満ち溢れていました。

里山を捨てた代わりに便利さ、物質的豊かさは手に入りましたが、人間が生きていく上で大切なものを私たちは知らない間に失ってしまったのです。今、それを取り戻すためにもう一度里山と向き合う必要があると考えます。

自然界の生きる知恵

学習の場として柏尾原学習林を

保全されているのですよね？

当会は1998年から地元の方々にお借りしている里山・柏尾原学習林（以下、「学習林」と略）の保全を行いながら「野草天ぷら会」や「小学生の体験学習の受け入れ」などを通じて、里山の素晴らしさを子どもたち、地域の方々に伝えています。里山を保全していくには、人の手によって草を刈ったり木を切り倒したりするなどの整備が必要です。不思議ですが、そうすることで生態系が保たれます。

学習林も元は他の里山同様ジャングルのように荒れていましたが、整備を始めてから2年後“ササユリ”の花が咲いているのを見つけました。もともと種がその場所にあったにも関わらず、人の手が入らなくなったことで咲くことができなかったのです。それから“ササユリ”の花は毎年咲くようになりました。里山にとっても、人間は必要な存在なのかもしれません。

現在、学習林には10数種の^{もうきんるい}猛禽類が集まっています。食物連鎖の頂点に君臨する彼らがいるということは、その場所がいかに生態系豊かなのかを証明していることになります。そしてそこには、人知が及ばない自然の生きる知恵がたくさんあります。随分昔の話になりますが、関東地方で大雪が降り、この地方も相当の覚悟と準備の必要性が求められた年がありました。実際には全く雪は降らなかったのですが、それを天気予報よりも早く教えてくれるものがありました。大雪を覚悟し、早めに学習林をウォッチングした時、カマキリが地上数センチに巣づくりをしていたのです。カマキリは「雪に埋もれない場所に巣をつくる」との言い伝えがあります。つまり、雪が降らないことをカマキリは人間よりも早く知っていたということになります。また、ミツバチは巣を作る時に、何度も会議を行います。日当たりは良いのか、危険なものは周りにないか、広さはどうなのか、などの議論を繰り返しながら候補地を絞り込み、全員が納得するまで何日間も続けると言います。このように、自然界の動植物は人間のように科学の力を使って自衛するのではなく、生まれ持った能力と生命、そして知恵を活かしながら懸命に生き延びようとしているのです。

エコミュージアムを夢見て

将来の展望を教えてください

今年4月に三重県総合博物館が開館しましたが、私たちの学習林を附属生態園エコミュージアムとして、広く県民に愛される里山にできないかと模索している途中です。三重県の過去の生態系を知るのはもちろん良いことですが、学習林にいる生物、自然も同時に知っていただければと思います。学習林は里山の代表であるコナラやクヌギが生い茂り、オオタカなどの希少動物が暮らす^{ぜいたく}贅沢な雑木林でありながら、街の中心市街地近郊にあります。これはとても珍しいことで、三重県、津市にとってかけがえのない財産だと思います。

過去の生活に戻ることは不可能に近いですが、かつて人々がやってきたように、里山という自然にとけこみ、ふれあい、自然を利用させていただきながら次代を育てていくのがわたしたちの究極の願いです。



会員による自然薯掘り&試食会



学習林内カスミサンショウウオの卵



野草天ぷら会

DATA

特定非営利活動法人 みえ里山自然ふれあいの会

事務局住所 〒514-0823 三重県津市半田 603-1
 T e l 090-1757-8824 (事務局長：村田)
 F a x 059-226-7719
 E - m a i l seiko-km@arion.ocn.ne.jp
 ホームページ <https://sites.google.com/site/mienosatoyama/>

代表理事 柏木 はるみ
 団体設立年月日 平成9(1997)年12月6日
 「NPO 三重の里山を考える会」として設立
 会 員 数 53名
 会 費 2,000円



「みえの市民活動ニュース」 座談会！



松阪市市民活動センター
澤さん

一どのような視点でニュースを作っていますか？

澤：いろいろと制約がある中で最低限やっていかなければいけないことを押さえつつ、ちょっと遊び心のある誌面にしていけたらと思っています。地域では市民活動に対しての認知度がまだまだ低いので、私たちとしては少しでも周知していきたいと思っています。「ハードル低く、間口は広く、志は高く」が作る上で気をつけていることです（笑）。

酒徳：いせ市民活動センターは今年7月で開館から10年目に入りますけれど、まだ何をするとところか分からない方は多いです。活動の紹介や報告を絶えずわかりやすく誌面に載せていくようにしています。うちも「ハードル低く、間口は広く、志は高く」という気持ちを持っています（笑）。すでに市民活動をしている団体にはさらにステップアップできる情報を、市民活動を知らない方たちには新鮮で刺激のある情報を届けたいなあと考えています。

川戸：誌面のメッセージ性が大事なかなと思っています。市民活動はこうあるべきとか、『まちのかかわり版』での声として発信してきたように思います。共感してくれる団体さんとなつがってきた10年だったかな。

服部：市民活動センターで働く者にとってはほしい情報でも、市民活動に関わっていない人には興味のない情報になることもあると思います。戦略性という面では、見せ方や対象を明確にして作ってきました。

一どのような点で苦勞していますか？

辻：マンネリ化とか、課題はいろいろとあると思うけど、どうやって構成したら皆さんに見てもらえるかという「誌面の作り方・見せ方」が気になっていますね。今のデザインも固定化してきたのでそろそろ変えていこうか・・・。

澤：情報量や文字の大きさ、記事の見せ方など、他の情報誌でいいなと思うところは参考に見せてもらっています。先ほどデザイン面の悩みの話がありましたが、発行している地域や場所で、情報誌が届く層へのデザインになっているからいいのではないかなと思う。今日改めて県内の情報誌を並べてみて、それぞれのターゲットに合ったデザインになっているのだなと改めて思いました。

三崎：『NPOネットワーク』はできるだけ外に出ていって外の情報を集めていきたいと思っているのですが、「やりました」という報告だけでこれからどうするというのがなくてマンネリ化しているので、改善方法を模索しています。



津市市民活動センター
服部さん

『カツドン』と『HAMACHI』を持ってきました。現在両方とも休刊リニューアル中なのですが、『HAMACHI』は新しい公共を支える資源循環のための事業の一環として作っていて3,000～3,500部発行していました。市民活動センターのほかにカフェやコンビニにも設置に協力いただきました。『カツドン』は自分たちで手刷りして、市民活動センターと登録団体に発送していました。

毎月10,000部発行し、団体の活動やイベントなどさまざまな情報を発信している『みえ市民活動・ボランティアニュース』。

三重県内の他の市民活動（支援）センターではどのような情報誌を発行しているのでしょうか？今回、県内各地の市民活動センターが発行している情報誌を切り口にした座談会を開催いたしましたので、その内容をご報告します。



いせ市民活動センター
酒徳さん

一どのような情報誌なら手にとり
川戸：自分が情報誌をとる方の身に
みなどに役立つものだったらばっ
わかりやすく表紙に書かれてあった



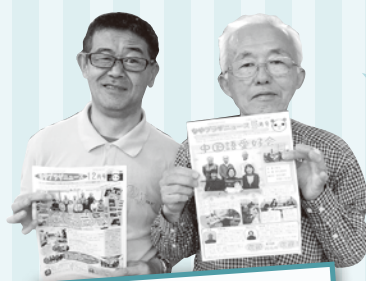
いなべ市市民活動センター
辻さん

『パルティ』を3カ月に1回、1,500部発行しています。まずセンター長と何を中心に作るのかを決めて、センターの活動がわかるように、それぞれの事業担当に記事をお願いしています。結構たくさんの人の手を入れて作っています。デザインと印刷は外部にお願いしています。初心者の方にも喜んで見てもらえるようなものを作りたいといつも思っています。センターからの「お知らせ」を書いた後は、できるだけ「報告」の掲載を心がけています。たくさんの人たちに読んでいただきたいので設置場所を開拓中です。

たいと思いますか？
 なって考えたときに、今の自分の悩と取ってしまうと思う。とくにそれがりすると手にとるかも。



『活センニュース』を毎月200～250部発行し、130の登録団体や企業、行政関連施設に配布しています。自分たちで取材から作成まですべて行っています。また、『いなべ市市民活動センターだより』という情報誌も年4回各12,500部ほど発行していて、全戸配布しています。記事に載せる内容を探すのはけっこう大変。マンネリ化してしまって誌面づくりにはいろいろと苦労しています。



四日市市なやプラザ
 三崎さん(左) 加藤さん

偶数月は『なやプラザニュース』、奇数月は『NPOネットワーク』というのを毎月交互に発行しています。2色刷りコピー機を使ってカラー用紙に自分たちで印刷しています。『なやプラザニュース』は館内だけの配布ですが、『NPOネットワーク』は各市民センターや役所関係に500～600部配布しています。制作から発行まで専門のスタッフが担当しています。

一取材はどれくらい行っていますか？

澤:1号に1団体紹介しているので、発行する1カ月前に団体に取材に行っています。
三崎:たくさん載せると見にくいということもあるので、1～2団体取材して載せています。団体さんにとっても、団体PRするときの資料となるようです。
辻:取材というか、団体さんのところにはよく出掛けています。ローカルな小さな団体が多いので、それらの団体さんの情報が載ると配布協力もしてくれます。そういう密接なつながりが、市民活動をちょっと知っていただける雰囲気になってきているのかなと思う。
川戸:きらきら基金の事業で年に1回3カ月くらいかけて、100団体くらいの団体を訪問して顔を合わせて基本情報をお聞きました。毎年20～30団体新規に増やしていった、既に登録している団体は更新という形で年に1度は訪問しています。訪問したときにいろんな情報交換もしています。
服部:津市が発行している「広報津」で、月1団体取材し、紹介させていただきました。長く取材しても200文字に削られますが、津市内に全戸配布なので、広報力はあったかと思います。
酒徳:私たちは行政チャンネルで月に1回、また、2カ月に1回ですが「広報いせ」の中で団体の紹介コーナーをいただいています。私たちが取材をするのではなく、希望団体に原稿を書いていただいたり、また、テレビに出演していただいたりして団体の情報発信ができるように、そのお手伝いをしています。

一市民活動団体の情報を載せたり、チラシを一緒に郵送することはありますか？

澤:記事として載せることはあります。チラシ封入のサービスは試しているものの団体さんからのニーズが少ないですね。
酒徳:団体の情報誌に私たちのイベント情報ははさんでもらうことはありますが、私たちの情報誌に団体の情報を同封することはないです。団体さんのイベント情報は誌面に掲載することで対応しています。
三崎:私たちは配るシステムがないので、誌面の裏にイベント情報として掲載しています。
辻:記事にも載せているんですが、記事に載らないものは直接チラシを持ってきてもらって、文化系の団体さんがコンサートを開催するときとか、一緒に入れていきます。
川戸:以前月に1回発行していたときは締め切りを決めてこちらから働きかけて団体さんからの記事を集めていたのですが、とても大変だったようです。

*ちなみにみえ市民活動ボランティアセンターは有料で承っています



みえきた市民活動センター
 川戸さん

『まちのかわら版』を月1度、中休みもありましたが、10年近く発行しています。編集長はずっと同じ女性が務めていて、一人で記事を集め、編集し、印刷機を使って手刷りしています。地域の市民活動団体や行政、中間支援など、約250カ所への郵送やインターネット配信をしています。資金があればあるように、なければないようにやっています。また、この2年は、年に一度『まちのかわらばん 特大号』カラー版を3,000部ほど発行し、100の団体を紹介しています。

座談会を終えて…

どの地域の市民活動(支援)センターさんも悩みながら、それぞれの特色ある情報誌を工夫を凝らして作っていることが印象的でした。
 『みえ市民活動・ボランティアニュース』は2014年7月25日発行の8月号から全面リニューアルいたします。三重県内の他の市民活動(支援)センターの情報誌とともに皆さまに読んでいただける誌面づくりを目指していきたいと思いますので、今後の『みえ市民活動・ボランティアニュース』にどうぞご期待ください!

募集とご案内

【お知らせ】

本コーナーは誌面リニューアルのため、7月号を最後になります。
お寄せいただいた情報は弊センターホームページでのご紹介のみとなります。

「イエ（家）」の問題に向き合ったことがありますか？ 女性と「イエ」

どのように「イエ」を守っていくか、継続させていくか…それは女性たちの重大な仕事であり、責任とされてきました。家制度がなくなって70年以上たった現在も昔と変わらず、女性たちの意識の中に脈々と受け継がれています。象徴的な「イエ」問題の一つがお墓を含めた葬祭の問題です。既婚女性の9割が夫姓をのっている現状においては、多くが「～家」の宗教が優先されています。そのことに疑問を持ち、語り始めた女性たちもいます。今回は長年、性差別問題に取り組んでこられた源淳子さんにお話を聞く機会を設けました。源さんは最近、「お墓は誰と入るの」と題した講座も開かれています。自分自身の問題として「イエ」と向き合うきっかけにしませんか？

講師 源 淳子さん 関西大学非常勤講師
日時 7月12日(土) 13:30～16:00
場所 フレンテみえ 和室
参加費 300円 **募集人数** 20名(女性限定)
問合せ先 NPO法人 女性と子どものヘルプライン・MIE
Tel 090-9223-3351 Fax 0595-21-8991
✉ dvhelplinemie@yahoo.co.jp

あなたに見てほしい写真がある フォトジャーナリズム展 三重 2014

この地球上で起こっているさまざまな現実をとらえた、国際的レベルのDAYS大賞受賞作品、および若手報道写真家吉田尚弘作品展。吉田展の中で「取材から1枚の写真を発表するに至るプロセス」を紹介。中西篤行氏による写真解説のフロア・レクチャーも開催。

日時 8月1日(金)～8月6日(水)
10:30～19:00 (最終日は17:00まで)
場所 津センターパレス 地下 市民オープンステージ

【併催】 吉田尚弘報告講演会「インドネシアのスラムから」
世界中のスラムと紛争地の「リアル」、日本国内では精神疾患の現状を追いかける、新進気鋭の報道写真家の報告講演会。

日時 8月2日(土) 13:30～16:00
場所 津センターパレス 地下 研修室
参加費 無料 ※申込み不要
問合せ先 フォトジャーナリズム展三重
Tel & Fax 059-229-3078 (真弓)
✉ photojournalism_mie@yahoo.co.jp
HP <https://ja-jp.facebook.com/photojournalism.exh.mie>

手話の魅力にふれる ～ろう者がはぐくんできた大切な言葉～

手話指導・手話研究の第一人者である木村晴美さんに、ろう者の立場から手話についてお話いただきます。手話を学んでみたいと思っている方は、ぜひご参加ください。
※手話通訳・要約筆記を行います。(ループ席もご用意)

講師 木村 晴美さん
国立障害者リハビリテーションセンター学院手話通訳学科教官
NHK手話ニュースキャスター
日時 7月12日(土) 13:30～15:30
場所 農業屋コミュニティ文化センター(松阪市川井町)
募集人数 500名 ※先着順、参加費 無料
問合せ先 松阪市役所障がいあゆみ課
Tel 0598-53-4079 Fax 0598-26-9113

2014年度 第3回 原発シンポジウム 知ってる？ 核燃料サイクル ～ どうする？ 放射性廃棄物

国や電力会社が建設を進める核燃料サイクル施設。このまま再処理工場やMOX燃料加工工場が稼働すれば、大量の核のゴミを未来の子どもたちに押し付けることとなります。「負の遺産」をこれ以上増やさないことが私たちの責任ではないでしょうか。

日時 7月19日(土) 13:30～16:00
場所 じばさん三重 5階研修室5 (Tel 059-353-8100)
対象 原発・放射性廃棄物に興味があるすべての方々
参加費 無料 ※申込み不要
主催 脱原発四日市市民の集い(代表 熊沢 誠)
問合せ先 シンポジウム実行委員会 大野 章・大野つた子・園田 淳
Tel 090-1414-4450 (大野)
✉ golondrina643@yahoo.co.jp (園田)
HP <http://blog.goo.ne.jp/tanutanu9887>

みえ母乳の会 第10回 母乳育児フォーラム

2012年の第8回フォーラムで講演していただき、とても好評だった堺 武男先生に離乳食や卒乳などを中心にお話していただきます。

講演 安心の離乳食と、ゆっくりの卒乳を目指して
講師 堺 武男 先生 さかいだけお赤ちゃんこどもクリニック院長
日時 7月21日(月・祝) 14:00～16:00
場所 三重県生涯学習センター 大研修室
参加費 500円 ※みえ母乳の会会員は無料
問合せ先 みえ母乳の会 事務局 Tel & Fax 059-233-0166
HP <http://entracte.vivian.jp/forum/forum.html>

助成金情報

助成金情報は、弊センターホームページでも多数ご紹介しております。

HP <http://www.mienpo.net/center/>

- ・「第15回 中部の未来創造大賞」募集 (分野:地域づくりに資する活動) 7月31日(木)
- ・ユニバーサル財団「東日本大震災支援プログラム」"傾聴ボランティア"を応援します 7月31日(木) 17:00 必着
- ・Panasonic NPO サポートファンド「子ども分野」/「環境分野」 7月16日(水)～31日(木) 必着
- ・都市緑化機構「第25回 緑の環境デザイン賞」/「第34回 緑の都市賞」 7月31日(木) 当日消印有効
- ・三重県遊技業福祉連合会「第12回 MPドリーム助成先募集」(ボランティアグループの諸活動を支援) 8月20日(水) 17:00 必着

ヒント13 社会貢献活動で企業が発展する

【ヒント13】

企業の社会貢献活動は、経営にゆとりがなければできないと考えられがちですが、近年は、むしろ社会貢献を企業変革に生かす考え方が生まれています。企業の社会貢献活動には、「本業とは直接関係ない慈善活動（近隣の道路清掃等）」や「本業を生かした社会貢献（売上の一部を寄付など）」などがありますが、さらに「社会課題の解決をビジネスチャンスにする」という視点への転換です。

また、三重県の企業の大多数を占める中小企業は、地域に根を張っており、地域から評価されることは企業の存続にとっても重要です。社会貢献活動によって地域から高い評価を得ている企業では、こういうところで働きたいと優秀なスタッフが応募してくるという「善循環」が生まれています。

社会貢献活動は、企業にとって社会的責任にとどまらないビジネスチャンスであり、しかも中小企業の方がその必要性が高いという考え方の転換は、企業の社会貢献活動を広げていく上で重要なことだと考えられます。

【ヒント13の事例】

- ① 中小企業向けCSRの確立を目指す「リプロ」（四日市市） **実施主体** リプロ株式会社（企業）
- ② CSRで会社を変える「万協製菓」（多気町） **実施主体** 万協製菓株式会社（企業）
- ③ 商店街が子育ての場となる「こども四日市」（四日市市） **実施主体** 四日市諏訪西商店街振興組合
- ④ 「男女がいいきいきと働いている企業」の表彰・認証制度（県） **実施主体** 三重県（行政）

引用：「夢をかたちにするまちづくり～『新しい公共』のヒント集～」(三重県・新しい公共円卓会議／2013年3月発行)

活動のぞき見隊 Vol.12

身体にハンディのある人を日本一のバリアフリー観光地でお迎えする

鳥羽駅ボランティアガイド（駅ボラ）をのぞき見たい！

NPO 法人伊勢志摩バリアフリーツアーセンターは、「伊勢志摩を日本一のバリアフリー観光地に！」を目的に、日本で初めてバリアフリー観光案内を常駐して行う等、数々の先駆的な活動を行っています。その活動の一つ「鳥羽駅ボランティアガイド（駅ボラ）」では、2005年から毎年ゴールデンウィークとお盆のそれぞれ3日間程度、近鉄鳥羽駅構内でボランティアによる観光案内を行っています。

2013年6月、三重県が「日本一のバリアフリー観光県推進宣言」を表明したこともあり、バリアフリー観光の推進には何が重要か、駅ボラを通してそのヒントを探しに行ってきました。

記者の雑感 記者・竹内

今や、高齢や障がいの有無に関わらず、あらゆる人が気兼ねなく旅行を楽しむ時代です。しかし、受け入れる観光地では、すべての施設がバリアフリーに対応しているというわけではありません。そこで、高齢者や障がい者が安心して旅行を楽しめるバリアフリー観光の推進には、きめ細やかな案内等の「人による支援」が重要であることを、今回の駅ボラで学びました。

こうした活動を、市民主体のNPOが継続して行うことは、伊勢志摩が誰にとっても優しく、ホスピタリティに満ちあふれた観光地である証だと言えるのではないのでしょうか。



駅ボラ初参加者は、必ず事前研修に参加します。鳥羽駅周辺のフィールドワークと、観光に関するワークショップを受講することで、観光案内の基礎を学びます。また、伊勢志摩周辺の観光スポットとバリアフリー情報を把握し、当日に備えます。



当日の駅ボラブース。近鉄鳥羽駅の一階と二階に開設。車いすやベビーカーの貸し出し、筆談にも対応します。高齢や障がいの有無に関係なく、伊勢志摩を訪れるすべての方たちに観光を楽しんでいただくための「おもてなし」の拠点です。



鳥羽駅構内では、バリアフリー化されていない場所がいくつかあります。車いすやベビーカーで移動する観光客には、駅ボラが直接サポートを行います。

団体情報

NPO 法人 伊勢志摩バリアフリーツアーセンター
517-0011 三重県鳥羽市鳥羽一丁目 2383-13 鳥羽一番街1階
TEL 0599-21-0550 **FAX** 0599-21-0585
E iseshima@barifuri.com
HP <http://www.barifuri.com/>



平和憲法ネットを世界に広げるネットワークin三重（平和憲法ネット）

代表 柴田天津雄さん（津市在住）

プロフィール

愛知県生まれ。20年前から津市在住。ユニオンみえの副委員長も務める。



戦争のない社会をつくることを目的に 2001 年に設立したネットワークです。発起人である前代表に代わって 3 年前から代表を務めています。

憲法、平和、原発、人権、差別等をテーマに、「ムーブメント平和への希望」と題して、毎月第 4 土曜日に上映会を行っています。その後、参加者で討論会をしています。また年 2 回は大ホールで講演会、上映会も行っています。

第 2 次世界大戦終戦前に生まれ、日本が貧困であった時に子ども時代を過ごしたので、昔から社会に関する問題に関心がありました。津市に来た 20 年前、盲目の森本おえさんが中学校入学問題でテレビやニュースで話題になっていました。手伝えることはないだろうかと直接森本さんに連絡をして、学校からの連絡、便りなどの点訳を何人かで手伝うことになりました。それが市民活動に関わるきっかけになりました。

世界で起こるさまざまな問題、日本では原発、憲法などに関するニュースが毎日流れています。憲法第 9 条では戦争をしないと記されていますが、戦争をするような社会に変わろうとしています。世の中に起きている問題の真実を知って、方向を間違えないように、みんなで話し合うことが大事だと思います。特に若い人には考えてもらいたいですね。

これからも基本的には上映会を続けて、一人でも多くの人に真実を知ってもらえるように、草の根の活動で発信していきます。



NPO・ボランティアの私の一冊

みえ県民交流センターの図書・資料コーナー等から、スタッフがおすすめする NPO やボランティアに関するさまざまな書籍類をご紹介します。



NPO 法人会計基準白書 2013 NPO 法人会計基準協議会 2014 年 3 月

NPO 法人の活動内容は会報や広報誌などを通じて情報発信されていることが多いですが、運営面、特にお金の動きがどうなっているのか、活動実態がみえにくいとされてきました。信頼される NPO セクターを築き上げていくためには、NPO 活動の正しい姿を社会に明らかにすることが求められています。

NPO 活動を正しくわかりやすく伝えるために、全国の NPO 支援センターや専門家等が「NPO 法人会計基準」をつくり、2010 年 7 月に公表しました。NPO 法人会計基準協議会が現場の NPO 法人にどれだけ普及しているか、全国約 2 万団体を対象に調査を実施し、調査結果をまとめたのが、『NPO 法人会計基準白書 2013』です。2012 年度から実施した 2 回目の調査結果となります。全国の多様な団体の具体的な回答事例が豊富に掲載されているため、会計担当者はもちろん、NPO 関係者にも参考になる 1 冊ではないでしょうか。（吉島）

転載を希望の場合は必ず「みえ県民交流センター指定管理者：みえ NPO ネットワークセンター」に連絡してください。

みえ市民活動・ボランティアニュースはこちらにあります。

【地域の市民活動センター等】〈津市〉みえ市民活動ボランティアセンター/津市市民活動センター/三重大学/看護大学/三重短期大学/高田短期大学 〈桑名市〉桑名市市民活動センター 〈いなべ市〉いなべ市市民活動センター 〈東員町〉ういんボランティア市民活動支援センター 〈四日市市〉四日市市市民活動センター/四日市大学 〈亀山市〉亀山市市民協働センター 〈鈴鹿市〉市民ネットワークすずかのぶどう/鈴鹿国際大学/鈴鹿医療科学大学 〈松阪市〉松阪市市民活動センター 〈伊勢市〉いせ市民活動センター/皇學館大学 〈志摩市〉阿児アリーナ/横山ビクターセンター 〈名張市〉名張市市民活動支援センター/エコリゾート赤目の森/名張市立図書館/名張青年会議所/名張市総合福祉センター 〈伊賀市〉伊賀市市民活動支援センター/伊賀市立図書館/伊賀青年会議所 〈尾鷲市〉東紀州コミュニティデザイン 〈明和町〉めいわ市民活動サポートセンター 〈南伊勢町〉南伊勢町町民文化会館 〈紀宝町〉紀宝町ボランティア市民活動センター

【地域の社会福祉協議会】県内の市町社会福祉協議会

【金融機関・企業等】百五銀行各店/第三銀行各店/三重銀行各店/東海労働金庫各店/県下 JA/バンク各店/メディカル光各調剤薬局

【行政機関等】三重県庁県民ホール/三重県地域機関（地域防災総合事務所〔桑名、四日市、鈴鹿、津、松阪、伊賀〕地域活性化局〔南勢志摩、紀北、紀南〕）/三重県米町庁舎（情報公開窓口）/三重県総合医療センター/三重県立一志病院/三重県立志摩病院/三重県立こころの医療センター/三重県立こころの健康センター/斎宮歴史博物館/三重県立博物館/三重県立図書館/三重県生涯学習センター/三重県男女共同参画センター「フレンドみえ」/三重県人権センター/三重県身体障害者総合福祉センター/三重県環境学習情報センター/三重県立熊野古道センター/各市町役場/各市町中央公民館など

認証した特定非営利活動法人

（2014 年 5 月 10 日～2014 年 6 月 9 日認証分）

①法人名②主たる事務所の所在地③活動分野④認証年月日⑤代表者

- ①特定非営利活動法人 四日市サッカー協会
- ②四日市市曙町 14 番 9 号
- ③まちづくり、学術、国際、男女、子ども、情報化社会、地域防災活動、障がい者の自立と共生社会、多文化共生社会
- ④ 2014 年 5 月 12 日
- ⑤理事長 宮脇 寛

- ①特定非営利活動法人 ゆずの木会
- ②津市岩田 3 番 5 号
- ③保健、人権、国際、子ども、多文化共生社会
- ④ 2014 年 5 月 22 日
- ⑤理事長 倉田 幸則

- ①特定非営利活動法人 とこめ
- ②津市一志町井関 1700 番地 1
- ③保健、農山漁村・中山間地域、人権、情報化社会、職業能力、障がい者の自立と共生社会
- ④ 2014 年 5 月 22 日
- ⑤理事長 細野 元

- ①特定非営利活動法人 三重のこころ
- ②伊賀市緑ヶ丘南町 3908 番地の 7
- ③観光の振興、災害、子ども、経済活動、職業能力
- ④ 2014 年 6 月 2 日
- ⑤理事長 森下 茂治

みえぎんNPOローン 好評取扱中

委託金、助成金等の受け取りまでの「つなぎ資金」として最高1,000万円まで無担保で融資！

対象：三重銀行の三重県下営業エリア内に主たる事務所を有する NPO 法人

※ただし、当行所定の審査の結果、ご希望に添えないことがあります。

詳しくは TEL: 059-354-7130（審査部）まで
URL: <http://www.miebank.co.jp>

“地域とともに みなさまとともに”



協賛

みえ市民活動・ボランティアニュース発行にあたり、協賛をいただいております。

キラリと光るあなたの銀行
第三銀行

三重銀行

百五銀行
FRONTIER BANKING

東海ろうきん

JAバンク
三重県下JA/JA三重信連

株式会社
阪本事務機



環境にやさしい植物油インキを使用しています。